活動報告

1994年度におけるマヤ考古学の概略

—第60回アメリカ考古学会年次大会に参加して—

佐 藤 孝 裕

An Outline of the Maya Archaeology of the Year 1994:
— Report of the 60th Annual Meeting of Society for American Archaeology —

Takahiro SATO

1

1995年5月1日から7日にかけて，アメリカ合衆国ミネソタ州ミネアポリスのヒルトン・アンド・タワーズホテルで，第60回アメリカ考古学会年次大会が行われた。ホテルの2階と3階を借り切り，大小合わせて15余りの部屋を使って催されたこの大会は，発表者だけでも1000人を超える大規模なものであり，この国における考古学研究者の層の厚さにはただただ驚くばかりであった。分科会の数も，資料1にあるように100を軽く超えており，テーマの多様さと共に，日本では考えられない充実ぶりであった。また分科会の名称自体の多様さ(workshop, symposium, sponsored symposium, general session, public session, plenary session, poster session, forum, sponsored forum, invited forum)自体にも，戸惑わされた。この大会に初めて参加した筆者は，フライトの都合上5月3日の深夜にホテルに到着したのだが，そんな時間にもかかわらずロビー中を埋め尽くすようにして飲みながら議論を楽しんでいる参加者のパワーに始まって，最後まで圧倒されっぱなしだった。

主要な分科会は5月4日から始まったので，筆者もその日から参加した。発表は朝から夕方まで行われ，殊に事実上の大会の初日である4日の分科会は，9時過ぎまで続けられた。10以上の部屋で数多くの分科会が同時進行で行われるため，聴講できる発表の数は非常に限定され，筆者も，自分の専門であるマヤ考古学に関する発表以外はほとんど聴くことができなかった。そこで本稿では，この大会で聴講した発表を基に，最近のマヤ地域における調査研究状況について報告したい。

2

まず調査地域だが，資料2を見れば明らかなように，圧倒的にベリーズが多かった。82の報告のうち，その約半分の39がベリーズで行われた調査に基づくものであった。ベリーズは，古典期にも後古典期にもマヤ文明の中心部にはならず，比較的中心からはずれていた地域であり，そのせいかグァテマラやメキシコに比べて大規模な遺跡が少なく，発掘調査も少な目だったように思われる。今年度のベリーズの遺跡への調査報告の偏りは，その反動ででもあろうか。

遺跡別では，セロス(Cerros)，チチェン・イツァ(Chichen Itza)，コパン(Copan)がそれぞれ5人以上によって報告され，目を引いた。セロスについての報告が多かったのは，「セロス再訪—

先古典期後期のマヤの一都市の調査への新たな戦略―」と題したシンポジウムが開かれたことによる。チチェン・イツァの場合は,「マヤ北部低地におけるイデオロギーと文化の複雑さ」と題したシンポジウムでそのほとんどの報告がなされている。これに対して，コパンについての研究発表は，いくつもの分科会で個別になされている。

全体として,若手の研究者による発表が多く,この点日本の学会の大会と同様であるように感じられた。

さて，次に国別に報告の概要について見ていきたい。なお，(　)内の数字は，資料2の題目の番号を表わす。

(1) ベリーズ

調査報告がなされた遺跡は，ラ・ミルパ(La Milp)，ドス・オンブレス(Dos Hombres)，ラス・アベハス(Las Abejas)，ギハラル(Guijarral)，カハル・ペチ(Kahal Pech)，パクビトゥン(Pacbitun)，ブルー・クリーク(Blue Creek)，スビン(Zubin)，コルハ(Colha)，カショブ(Kaxob)，ラグーナ・デ・オン(Laguna de On)，ベイキング・ポット(Baking Pot)，チャウ・ヒイシュ(Chau Hiix)，ブラックマン・エディー(Blackman Edie)，サン・ロレンソ(San Lorenzo)，アルトゥン・ハ(Altun Ha)，ラマナイ(Lamanai)，ティプ(Tipu)，サン・ペドロ(San Pedro)，セロス，PB-11, PB-43である。この中で，私自身が関心を持った点について触れてみたい。

まずラ・ミルパだが，先古典期から古典期後期には，居住は中心部に集中していたのだが，人口が急増した古典期の後期から終末期にかけては，至る所に住居が建設されている。環境の改変も，この時期の人口の急増に対応した結果である可能性があるとしている（1・37・38)。また，ラ・ミルパと同様リオ・ブラボー(Rio Bravo)氾濫原にあるドス・オンブレスでも，同じ頃に人口の急増が確認されている（1・9)。

古典期崩壊の時期に，ベリーズの都市の中には余りその影響を被っていないものが少なくない。その一例として，ラマナイの東17kmにあるチャウ・ヒイシュが報告されている。ここでは，ラマナイと同様，先古典期に始まった居住は後古典期まで続いており，その理由として河川やラグーンを利用したシステムのおかげでコミュニケーションが容易であった点が指摘されている（41)。

マヤ地域では，円形の建築物はきわめて稀だが，カハル・ペチにある先古典期中期の円形の基壇が，儀式における重要性という観点から報告されている（20)。

ブルー・クリークのセトルメント・パターンの研究から，環境(土地の生産性)，経済(交易)，政治（エリート階級の成長や長期に渡る王国の存在）などの諸要因が居住に影響を与え，都市は地域間の政治経済的関係をうまくコントロールできるような戦略的位置に立地すると豊かになり，独立することができるとしている（22)。

(2) グァテマラ

ドス・ピラス(Dos Pilas)，ティカル(Tikal)，ワシャクトゥン(Uaxactun)，アグァテカ(Aguateca)，リオ・アスル(Rio Azul)について，調査の結果が報告された。中でもペテシュバトゥン(Petexbatun)地域での調査に基づく二つの調査が興味をそそった。一つはアグァテカにおける調査で得たデータによるもので，これによるとマヤ低地南部の人口の見積りは，これまで考えられていたよりも低くなるという(36)。もう一つは，ドス・ピラスにおける6年間に渡る調査の結果によるもので,戦争の激化によって,9世紀までにこの地域では政治的崩壊が生じた(33)。

(3) メキシコ

カラクムル(Calakmul)，ジビルチャルトゥン(Dzibilchaltun)，オシュキントク(Oxkintok)，ウシュマル(Uxmal)，アケ(Ake)，チチェン・イツァ，マヤパン(Mayapan)，ヤシュナ(Yaxna)，ムルーチク(Mul-Chic)，ユラ(Yula)，カンバラン(Canbalam)，シュクロク(Xcloc)，サイル(Sayil)についての報告がなされた。

マヤ人が天体観測を行っていたことは広く知

られており，チチェン・イツァのカラコルやワシャクトゥンのグループＥなど，そのために利用されたと見られる建築物があるが，カラクムルのグループＥも，夏至・冬至や春分・秋分を観測するために用いられたという（31)。

ムルーチクの壁画については，筆者は以前チョンタル・マヤ人による侵入との関連で発表したことがあるが（注1)，そこに描かれた戦闘シーンはプウク(Puuc)地方東部の武力による統合を表わすものであり，ウシュマルがカバー(Kabah)などと同盟して900年頃までにその地域の国家の首都になったことが背景にあるという（66)。

テスカトリポカ(Tezcatlipoca)と言えばトルテカ(Tolteca)の戦争の神であり，文化神ケツァルコアトル(Quetzalcoatl)との戦いに関する神話は，トゥーラ(Tula)の歴史を語る際にも必ず出てくるテーマだが，この話は既にチチェン・イツァで知られており，むしろ最初にテスカトリポカが表わされたのはチチェン・イツァにおいてだったという（68)。このチチェン・イツァが勃興したのは，統治や儀式，及び複雑な経済体系を新たにしたことによるものであり，それを支える上で貢物と交易が重要であったという（67)。

(4) ホンジュラス

報告はコパンに関してのみだったが，先述したように６件もの報告があった。そのうち２件の報告について述べたい。一つはアクロポリスにトンネルを掘ることで，400年に渡ってコパンの古典期の王権や政治とかかわりのあった場であるこの建築物の重なり合いを明らかにし，時とともにアクロポリスがどのように変わったか追究している(57)。また，もう一つの報告によると，祖先崇拝はあらゆる社会階層に行き渡っていたという（16)。

次に，特定の地域に限定するのではなく，マヤ社会全体に渡るテーマについての報告のうち，二つを紹介したい。一つは，建築物や公共工事をする際の労働力のコントロールに関するもので，これがエリートの権力を正当化し，それを維持するのに役立ったとする（13)。

もう一つは，マヤの都市形態を，碁盤の目状のギリシャ・ローマの都市や，ヨーロッパ中世の都市やアジアの都市などと比較することで，マヤの都市の特性を建築物の無秩序・無計画に見える配置であるとしている（23)。

3

大会全体の印象の一つとして，報告者の多くが若手の研究者のようであったという点が挙げられる。しかしながら，先にも述べたように，発表者だけでも1000人を越えるという，日本では想像もつかないような大きな大会であるにもかかわらず，日本人の報告者はほんの一握りしかいなかった。それどころか，参加者の中にも，日本人の姿はほとんど見当たらなかった。この分野の研究者の絶対数の差だと言われればそれまでだが，それにしても寂しく感じられた。

現在，マヤ地域も含め，メソアメリカやアンデスで発掘を行っている若手の日本人研究者が増えつつある。彼らが日本の学会の大会ではなく，このような国際的な大会に積極的に発表の場を求めるようになることを祈らずにはいられなかった。これは，私自身の課題でもある。初めて海外の学会の大会に参加したことからくる高揚感と共に，重い課題を背負って身が引き締まるような思いでミネアポリスを後にした。

注

1）佐藤孝裕「古典期終末期における変動とセイバル」史学第61巻第１・２号，153—173頁

資料１　大会の分科会のテーマ
(WS＝workshop, SP＝symposium, GS＝general session, PS＝poster session, SS＝sponsored symposium, SF＝sponsored forum, FR＝forum, IF＝invited forum, PUS＝public session, PLS＝plenary session)
（５月１日）
［WS］ 考古学におけるGIS（地理学情報システム）

（5月2日）
［WS］ 考古学的遺跡発見のための方法と技術上の進歩
（5月3日）
［WS］ 文化的資源の管理における地質学の役割
［WS］ 考古学的遺跡の評価のための方法と技術上の進歩
［WS］ パーソナル・コンピューターのためのGIS
［WS］ 岩石磁気学
［WS］ 考古学の健康と安全
（5月4日午前）
［SP］ 南部平原周辺におけるパレオインディアン再考
［GS］ 考古学の方法と理論
［SP］ ティワナクの中心地域に関する新観点
［GS］ 西アジア，アフリカと地中海の考古学
［SP］ マヤの経済的政治的統合―北西ベリーズからの観点―
［PS］ 北米東部の考古学
［SP］ 余剰労働力と社会的権力
［GS］ 旧世界―旧石器／氷期後期―
［SSP］ 時間，文化，芸術　I　小規模社会
［GS］ ミシシッピーの考古学
［SP］ アナサジの暴力行為の解読
［SP］ 貝製装飾品の生産―新世界の観点―
［SP］ メキシコ西部における古典期から後古典期への変遷
［SP］ ダーウィン流考古学の実践
［SP］ ジェンダーと，力の解釈
［SF］ 州考古学の数週間
［WS］ 歴史的保存に関する諮問委員会
（5月4日午後）
［SP］ 後古典期再訪―中部メキシコの社会的発展と年代―
［SP］ ヨーロッパ先史時代後期への新アプローチ
［SP］ 岩石分析における方法と理論への新アプローチ
［SP］ 遺物の不正取引とマーケティング―保存への商業的脅威―
［GS］ 南西部―環境，テクノロジーと分析―
［GS］ ヨーロッパの青銅器時代とその後
［GS］ 南アメリカ
［GS］ 中西部ど中南部の考古学
［GS］ ラテン・アメリカ
［GS］ 南西部とミクロネシアにおける理論と実践
［SP］ 更新世後期の五大湖と北東部における初期パレオインディアンの文化的・生態学的適応
［GS］ マヤ
［FR］ 分類学上の同定と動物相の概略
［SSP］ 時間，文化，芸術　II―文化接触と変化と大規模社会―
［SP］ 生産と専門分化への理論的方法論的アプローチの再検討
［PS］ 旧世界考古学
［PS］ 南西部の考古学
［PS］ 北米西部の考古学
［SF］ 公的教育と考古学上の経歴
（5月4日夜）
［GS］ 中西部北部と東部平原の考古学
［GS］ 北東部の考古学
［SP］ 形式的分析の具体化―考古学上の問題への新しいアプローチ―
［IF］ アメリカ考古学再構築のための創造的解決策の発見
［SP］ 北部チリの先史時代とアタカマ砂漠
［SP］ メソアメリカにおける祝祭―社会的慣行と考古学上の署名―
［SP］ 考古学，地形学と古環境―五大湖西部におけるパレオインディアンの居住―
［GS］ マヤ
［GS］ 南アメリカ
［GS］ 考古学と大衆
［SP］ 首長国における住居の考古学―北西部デンマークからの一例―
［SP］ 先史時代の北米南西部における技術の専門化
［SP］ 石の原料分析―旧世界と新世界からの事例―
（5月5日午前）
［SP］ 古代近東における土器製作―製作状況，規模，組織とその関係―
［SP］ アメリカの沖積層低地における不連続
［SP］ 西ヨーロッパの更新世後期における状況の適応
［SP］ 黒曜石の水和化による年代測定法―最近の方法論上および実験による進歩―
［SP］ 社会的境界，技術上の選択と物質文化のパターニング
［SP］ 代替考古学―アングロ＝アメリカン・パラダイムを越えて―
［GS］ マヤ

[SP] ボリビア西部の形成期の文化—再検討—
[SP] プエブラ考古学における新たな展望
[SP] 公道・鉄道用地の考古学
[SSP] 動物考古学における科学的アプローチ
[GS] オセアニア
[GS] ベーリンジアとパレオインディアン
[SP] 後期ウッドランド初頭と北米北東部における農耕の起源
[PS] 考古学の方法と理論
[PS] ラテンアメリカの考古学
[SF] 考古学における経歴—将来の機会への計画—
[WS] お召しを受けたばかり（公教育委員会）

（5月5日午後）
[SP] ローマへ向けての前屈み歩行—地中海中部の先史時代—
[GS] 東アジアの考古学
[GS] 南西部—家族と村の生産—
[SP] 過去の盗用—考古学の社会政治学—
[SF] 未来のために過去を救え—1994年の会議の結果に関する公開フォーラム—
[SP] 親族，共同体，政治組織と教区—ヨーロッパの社会制度の再現に向けての地域的戦略の評価—
[GS] メキシコにおける現今の調査
[SSP] 北西部北部における石材調達の調査
[SP] 近東の新石器時代初期の社会的形態—共同体の同定，階層制組織と儀礼—
[SP] 生活史による人間行動の考古学へのアプローチ
[SP] 古代エフトラ遺跡の家庭状況における多種技術による生産
[SP] 洪積世から沖積世にかけての海岸線と水路の端—人類の北米東部への進出の考古地理学的状況—
[SP] マヤ考古学における心，意味と社会的同一性の回復への統合的アプローチ
[SP] 南米アンデスの沖積世中期の気候と文化
[GS] ラテンアメリカの考古学
[WS] 教育者の研究会—考古学教育—
[SF] NAGPRA（アメリカ先住民の墳墓の保護および送還法）と帰属不明の人類遺物の処置

（5月6日午前）
[SP] 物質文化と社会のプロセスの力学—ミンブレス（Mimbres）の考古学における理論とデータの相互作用—
[SP] 北米におけるアメリカ先住民の農業戦略
[SP] セロス再訪—先古典期後期のマヤの一都市の調査への新たな戦略—
[SP] レヴァント南部における新石器時代後期の変遷
[SP] インド太平洋沿海地域の古景観の変化—現今の調査—
[SP] 東ヨーロッパとロシアの旧石器時代後期初頭
[SP] 過去おける自然銅と先住民—北米東部からの展望—
[SP] モケグア（Moquegua）の考古学調査—ペルーの中部オスモレ（Osmore）河谷における居住と生業に関する新たな調査—
[SP] アラスカ南西部アルチイク（Alutiiq）地域の考古学における新たな展望
[SP] 周辺部における進歩—北大西洋沿海地域の石器時代から中世—
[SP] 考古学，建築と人工遺物—過去の解釈への批判的アプローチ—
[SP] 北米狩猟採集民の間の資源の増大
[SP] 土塁，砦と村落—聖と俗の解明—
[SP] 中部高原とロッキー山脈のパレオインディアンの考古学と考古地理学に関する現今の調査
[SF] アメリカ合衆国のインディアン政策とインディアンの土地における考古学の指導—インディアン局との対話—
[GS] 南西部の考古学

（5月6日午後）
[PUS] 過去からの学習—考古学への参加—
[SP] 文化的資源の管理—再評価—
[SP] 初期農耕社会に関する現今の学際的調査
[SP] ダム後のミズーリ川中流域の考古学
[SP] チャコのアウトライアー（outliers）の新研究
[SP] アマゾン西部—調査における新方針—
[SP] 天と地の間—考古学における方法の理論—
[SP] マヤ北部低地におけるイデオロギーと文化の複雑さ
[SP] プエルト・リコ，ポンセのセリージョス（Cerrillos）河谷における考古学調査
[SP] パレオインディアンの生業と食事の幅に関する地域的展望
[SP] 先史時代のヨーロッパにおける農業への推

移
［GS］ 南西部―社会政治組織―
［GS］ 旧世界考古学
［GS］ 北米東部の考古学
［GS］ 北米西部の考古学
（5月6日夜）
［PLS］ ものを言う考古学―公園，博物館とヴィデオ―
（5月7日朝）
［SP］ 考古学における単位の構造―空間，時間と物質の測定―
［SP］ 文化的論理，社会的作用と技術の政治的力学―有形物を越えて―
［SP］ ラテンアメリカにおける植民地主義と帝国主義の考古学
［GS］ 南西部―文化の歴史と変化―
［SP］ 南米北西部の考古学
［SP］ 紀元1000年紀のスカンディナヴィアとイギリス諸島における居住，社会と権力
［GS］ 中部大西洋岸と南東部の考古学
［SP］ ユカタン北部―先スペイン期のマヤ社会と社会組織―
［SS］ 環境と生業―植物化石の考古学記録への統合―
［SP］ 生態系管理，文化的遺産管理，とCRM―神話，事実と調査された現実―
［GS］ 北極地方と太平洋沿岸地域の考古学
［SS］ 最古のアメリカ人の国立歴史的ランドマークのテーマの研究
［GS］ 平原の考古学
［GS］ 考古学の方法と理論

資料2　マヤ関係の研究発表

(1) 北西ベリーズのラ・ミルパとドス・オンブレス遺跡の周辺部のセトルメント調査
(2) PB11の発掘―北西ベリーズの古典期マヤ住居―
(3) 一小マヤ遺跡の内的力学―ラス・アベハスの発掘―
(4) 古代マヤ遺跡PB43入門
(5) ベリーズのドス・オンブレス調査の予備報告
(6) ベリーズのギハラルにおける景観の改変とコミュニティ
(7) 物質の描写による古典期後期マヤの文化的洞察
(8) 非エリート居住の小農村遺跡の遺物の骨学的分析
(9) ベリーズのリオ・ブラボー氾濫源における1993-1994年のセトルメント調査
(10) 北西ベリーズの古代マヤの陸水利用の付着成長モデル
(11) 古典期後期マヤの経済的統合―ペテン北東部の石生産システムからの展望―
(12) マヤ低地ペテン北東部とベリーズ北西部に関する地域的展望
(13) 古典期後期マヤ社会における余剰労働力のコントロールと富と権力の配分
(14) 古典期マヤ社会における社会的力と労働組織―ホンジュラス，コパンの建築の分析―
(15) ティカルにおける貝製品の生産と消費の状況
(16) 地方の先祖―マヤの埋葬パターンの解釈―
(17) グァテマラ，アティトラン湖北部分水嶺出土の黒曜石製品の出所の研究
(18) マヤの「東洋化」
(19) 小さい人々―先コロンブス時代のマヤ人の中での小人についての議論―
(20) ベリーズ，カハル・ペチの古代マヤの円形建築物―先古典期中期の円形基壇の複雑さについての新洞察―
(21) ベリーズ河谷の先古典期マヤの黒曜石
(22) ベリーズ北部のマヤのセトルメントの諸相―ブルー・クリークからの見方―
(23) 比較の観点から見たマヤの都市形態
(24) ベリーズ，カヨ・ディストリクトのズビン出土の古代マヤの儀式用浣腸用具のアセンブリッジ
(25) ベリーズ，コルハの先土器時代のセトルメント―1994年の調査―
(26) マヤ先古典期の祝祭における犬の重要性
(27) タマールとアトーレ―マヤ先古典期の増加するステイタス―
(28) 古典期マヤの祝祭，同盟と贈与
(29) 共同体の祝祭儀礼と後古典期マヤ村落の政治構造
(30) 変化する顔―ベリーズのブルー・クリーク遺跡の仮面の神殿に関する議論―
(31) 太陽観測所かあるいは寓話か―カラクムルのグループEコンプレックスの一例―
(32) グァテマラ，ペテン州のラグーナ・タマリンディートの中心部の花粉調査の予備的結果
(33) 古典期マヤ崩壊時の王宮―機能，歴史と調査の方法論―
(34) ティカルとワシャクトゥン―隠し場(cache)の比較―

(35) ホンジュラス，コパンにおける古典期後期マヤの権力関係の動的モデル
(36) 古典期のマヤ低地の人口の概算—グァテマラ，アグァテカの新しいデータ—
(37) 草刈り鎌をフル回転—1994年のベリーズのラ・ミルパの調査—
(38) もっと多くの丘，もっと多くの栄光—ラ・ミルパの住居のサンプリング—
(39) ベリーズのベイキング・ポットにおける堀溝畑農業とその古代マヤの社会組織の分析との密接な関係
(40) 北部河川ラグーンにおけるモンキー・ビジネス—北部ベリーズにおける中心と周縁間の交換とイデオロギーの領域—
(41) チャウ・ヒイシュにおける後古典期の居住
(42) カトゥン歓迎—コパンの石碑Aとサイクルの最後のツォルキン—
(43) ベリーズのブラックマン・エディの建築物B1の先古典期後期の仮面
(44) ベリーズのブルー・クリーク遺跡における儀礼活動
(45) グァテマラのペテンの19世紀のラカンドン・マヤの歴史考古学—異文化交流と文化変化に関する研究—
(46) マドリッド・コデックスの神々—題銘によるアプローチ—
(47) 古典期終末期マヤ社会における異質社会の混交と政治的統合—ベリーズのサン・ロレンソにおいて継続中の調査—
(48) ベリーズ南岸における古典期マヤの住居と平均海面の変化のモデリング
(49) リオ・アスルの噴墓19出土のサンプルに関する分析的研究
(50) 古典期後期コパンにおける食事
(51) 生ごみ
(52) マヤの考古動物相における社会の複雑さの同定—方法と理論についての諸問題—
(53) 現世から来世へ—埋葬についての人間の行動，文化的脈絡と社会的慣行—
(54) 物置の中の骨—マヤ先史時代における骨の遺物とジェンダー間の関係についての一考察—
(55) ティプ，ラマナイ，サン・ペドロ出土の石の道具—テクノロジーと変化に関する接触期の展望—
(56) 対立する信仰仲間—マヤの隠し場への貯蔵の人類学における権力，アイデンティティと譲渡できない財産—
(57) ホンジュラスのコパンのアクロポリスの石造建設システム
(58) ベリーズのセロスの新調査
(59) ベリーズのセロスの建築物6のコンプレックスの新解釈
(60) ベリーズのセロスのモニュメンタル・センターの小建築物の調査
(61) 1993-1994年のセロスの調査—明らかになった聖なる光景—
(62) ベリーズのセロスのチャート製品の中性子化合放射分析
(63) 土器分析によるセロスの古典期前期の儀礼活動についての調査
(64) ユカタンの石
(65) ヤシュナ—ユカタン北部の初期の王都—
(66) ユカタンのプウク地方の国家形成を表わす可能性のある証拠としてのムル—チクの壁画
(67) チチェン・イツァにおける交易，貢物と芸術
(68) チチェン・イツァの煙が出る鏡
(69) チチェン・イツァの儀礼ダンス—マヤ北部低地における文化の連続と革新—
(70) チチェン・イツァの碑文と考古学的データの相関関係
(71) 国家と宇宙—周辺における権力の現われ—
(72) 北部ユカタンの考古動物相の解釈における考察
(73) カンバラン
(74) 行動とユカテカの村落における築かれた環境
(75) 尼僧院と，他のウシュマルの大きな中庭を囲む建築物—エリートの住居か都市＝儀式コンプレックスか—
(76) メキシコのユカタンのプウク地方の都市と田舎の居住システム
(77) プウク地方の編年についての調査—シュキプチェ（Xkipche）考古学計画—
(78) 土器生産，居住区組織とマヤの経済—メキシコのユカタンのサイールにおける経済の専門化—
(79) 古典期終末期におけるチチェン・イツァとその居住者—マヤとトルテカの居住の分析—
(80) ジビルチャルトゥン再訪
(81) スレート容器の汎地域的比較—研究所での分析によるセーペチーソトゥータ問題へのアプローチ—
(82) メキシコのユカタンのマヤパンのセトルメント・パターンと社会組織